

報道関係各位

2009年12月3日

理想の音響特性を追求した結果、生まれた
タマゴ型スピーカ “D’ Egg” が発売！

ビフレストック株式会社（東京都千代田区/代表取締役社長：井橋孝夫）は、12月3日から、理想の音響特性を追求した結果、開発されたタマゴ型スピーカ “D’ Egg” 3機種を発売する。

この「タマゴ型スピーカ “D’ Egg”」とは、箱形スピーカと異なり、そのフォルム・デザイン（キャビネット及び振動板の形状）がまさしくタマゴの形をしており、そのデザインからくる音響特性により“ピュアで自然な音”の再生を目指している。

従来の箱形スピーカの場合、試聴位置は左右のスピーカを結んだ二等辺三角形の頂点が最適とされていた。しかし、このタマゴ型スピーカの場合、±120度以上の広範囲にわたる良好な指向特性により、なめらかな球面波が空間を伝わるため試聴位置を選ばない。つまり、最適な試聴位置が広範囲にわたるため、室内のどの場所においても常に音質が変化せず、音の“広がり”“奥行き”などが楽しめる理想のスピーカが完成した。

また、箱形スピーカは、キャビネットが平行した壁面のようなデザインであるため、壁面間の反射による強い定在波が発生し、再生音に影響することがいわれていた。併せて、スピーカがコーン形状の場合、くぼみの影響による「音響共振」、コーン周辺のエッジやフレームの凹凸による「音の反射」、スピーカキャビネットのコーナー部分での「音の反射」などの付帯音があり、音がスピーカから耳に届くまでの“時間のずれ”が指摘されていた。しかし、“キャビネット”はもちろんキャビネット形状と同じ曲率の“振動板”を開発することで、その定在波や付帯音の発生を低減させることに成功し、“ピュアで自然な音”の再生が、このタマゴ型スピーカで実現した。

開発にあたっては、ソニーのOBが設立した同社において、会長でもあり、“CDの父”といわれる「中島平太郎」がプロジェクト・リーダーを務め、長年、中島とともにソニーのスピーカの開発製造に携わってきた技術スタッフが約3年の月日をついやして完成にこぎ着けた。発売日は、12月3日からで、同社のホームページ（<http://www.bifrostec.co.jp/degg>）からの申込みによる販売のみ。

尚、発売されるのは、全てが“手作り”の3機種で、そのひとつには、カガミクリスタル

株式会社 (<http://www.kagami.jp/>) が“クリスタルガラス”でキャビネットを作成したのもあり、この古くて新しい形のスピーカの登場が次世代スピーカのひとつの形を示しているように思われる。

■ 本商品に関する問い合わせ先

・ ビフレステック株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3-8 稲岡九段ビル

電話：03-3288-5271 FAX：03-3288-5272